

科目名	運動学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	解剖学・生理学・運動学の知識をもとに、実際の身体運動を視診・触診を通して学び、身体運動・動作の特徴を知る。									
一般目標	さまざまな身体運動・動作を運動学的に分析することを通じて、身体運動・動作の特徴やその仕組みについて知識を習得する。									
テキスト 参考書等	参考書:基礎運動学 第7版(医歯薬出版)、基礎運動学テキスト(南江堂) 15レクチャーシリーズ理学療法・作業療法テキスト運動学実習(中山書店)、PT・OTのための運動学テキスト(金原出版)									

到達目標			
知識(認知領域)			
・各関節の運動学的特徴が理解できる。・国試(主に運動学)過去問が解答できる。 ・静止姿勢や動作時の分析方法を理解できる。			
技術(精神運動領域)			
・動作観察ができる。			
態度(情意領域)			
・授業に主体的に参加できる。 ・授業内外での課題を提出できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	下肢帯および下肢の機能解剖	下肢帯および下肢を構成する骨格・筋を触察することができる。	下肢の骨格と筋の名称を予習する(30分)。 触察した下肢の骨指標と筋を復習する(30分)。
2	下肢帯および下肢の関節運動	下肢における各関節運動の運動学的特徴を理解できる。	下肢各関節の運動方向と軸を予習する(30分)。 下肢関節運動の運動学的特徴を復習する(30分)。
3	上肢帯および上肢の機能解剖	上肢帯および上肢を構成する骨格・筋を触察することができる。	上肢の骨格と筋の名称を予習する(30分)。 触察した上肢の骨指標と筋を復習する(30分)。
4	上肢帯および上肢の関節運動①	上肢帯(肩甲帯)における各関節運動の運動学的特徴を理解できる。	肩甲帯の関節構造と運動を予習する(30分)。 肩甲帯の運動学的特徴と動きを復習する(30分)。
5	上肢帯および上肢の関節運動②	肘関節・前腕の運動における運動学的特徴を理解できる。	肘関節と前腕の解剖運動学を予習する(30分)。 肘と前腕の運動学的特徴を復習する(30分)。
6	上肢帯および上肢の関節運動③	手関節・手指の運動における運動学的特徴を理解できる。	手関節と手指の解剖運動学を予習する(30分)。 手関節と手指の運動学的特徴を復習する(30分)。
7	頭頸部・体幹の機能解剖	頭頸部ならびに体幹を構成する骨格・筋を触察することができる。	頭頸部と体幹の骨格・筋を予習する(30分)。 触察した体幹の骨格と筋を復習する(30分)。
8	脊柱・体幹の関節運動	脊柱・体幹における運動学的特徴を理解できる。	脊柱の構造と可動範囲を予習する(30分)。 脊柱・体幹の運動学的特徴を復習する(30分)。
9	姿勢:静止姿勢、姿勢制御	静止姿勢アライメントの分析、立位・座位姿勢での立ち直り・バランス反応の観察ができる。	姿勢反射と立ち直り反応を予習する(30分)。 静止姿勢の分析方法と反応を復習する(30分)。
10	歩行①	正常歩行における距離因子と時間因子を説明できる。 歩行周期の相・期を説明できる。	歩行の距離因子と時間因子を予習する(30分)。 正常歩行の各因子の定義を復習する(30分)。
11	歩行②	正常歩行における距離因子と時間因子を説明できる。 歩行周期の相・期を説明できる。	歩行周期の相と期の名称を予習する(30分)。 歩行周期の各相の役割を復習する(30分)。
12	歩行③	正常歩行時にみられる関節運動、筋活動について説明できる。	歩行時の関節運動と筋活動を予習する(30分)。 歩行時の主要な筋活動を復習する(30分)。
13	歩行④	異常歩行の種類と特徴を説明できる。	異常歩行の種類と原因を予習する(30分)。 代表的な異常歩行の特徴を復習する(30分)。
14	歩行⑤	異常歩行の種類と特徴を説明でき、歩行の特徴をとらえて模倣できる。	異常歩行の観察ポイントを予習する(30分)。 異常歩行の模倣を通じ特徴を復習する(30分)。
15	呼吸と循環	運動時の呼吸・循環応答が理解できる。	運動時の呼吸・循環応答を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として医療・福祉領域で臨床活動に従事した経験を有する		

科目名	運動器障害作業療法評価法					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験	有	使用教室	レクリエーション室	
授業概要	作業療法で実施する運動器障害にかかわる評価法の概要を学習する。 上位学年で実施する評価の演習や実技をスムーズに履修できるようにするため、基本的な目的、手順、留意点を学習する。									
一般目標	運動器障害領域で一般的に用いられる評価の概要についての知識を修得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第4版(医学書院) 新・徒手筋力検査法 第9版(協同医書出版社)、 実践リハ評価マニュアル 臨床ROM 第2版(ヒューマン・プレス) 適宜資料配布									

到達目標				
知識(認知領域) ・各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を説明できる。				
技術(精神運動領域) ・運動器障害に関わる代表的評価法を指導のもとで正確に実施できる。				
態度(情意領域) ・授業に出席し、主体的に授業に参加できる。 ・学生同士で知識を共有しながら取り組む(アクティブラーニング)。				
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)	
1	意識・バイタルサインの評価	意識・バイタルサインの評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	バイタルサインとは何かを教科書で調べておく。(30分)	
			意識障害の評価基準とスコアを覚える(30分)	
2	形態計測	形態計測計測に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	形態計測の種類について教科書で復習しておく(30分)	
			形態計測の測定部位を覚える(30分)	
3	関節可動域測定①	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	関節可動域の定義を教科書で調べておく(30分)	
			各関節可動域を覚える(30分)	
4	関節可動域測定②	関節可動域測定に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	各関節可動域を覚える(30分)	
			各関節可動域を覚える(30分)	
5	筋力検査①	筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	徒手筋力検査とは何かを教科書で調べておく(30分)	
			徒手筋力検査の段階付けを覚える(30分)	
6	筋力検査②	筋力検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	徒手筋力検査以外の筋力検査には何があるかを調べる(30分)	
			配布資料の復習をする(30分)	
7	感覚検査①	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	感覚の種類を復習しておく(30分)	
			感覚検査の評価について復習する(30分)	
8	感覚検査②	感覚検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	感覚検査の手順について復習する(30分)	
			感覚検査の国家試験に出やすい箇所を復習する(30分)	
9	上肢機能検査(STEF)	上肢機能検査に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	STEFの概要について調べておく。(参考元は指定しない)(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	
10	肩の評価	肩の評価に関する、目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	肩関節を構成する筋肉を理解する。(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	
11	脊髄損傷の評価	脊髄損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	p287～p290を一読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	
12	末梢神経損傷の評価	末梢神経損傷の評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	p336図2腕神経叢を1回以上図示し、各神経を理解する。(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	
13	関節リウマチの評価	関節リウマチの評価に関する目的、手順、留意点を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	関節リウマチの代表的な関節変形について調べておく。(参考元は指定しない)(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	
14	ボディメカニクス①	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	支持基底面の概念を理解しておく。(参考元は指定しない)(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。	
15	ボディメカニクス②	ボディメカニクスを学ぶ意義を理解し、基本的な知識を習得できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	バランスの概念を理解しておく。(参考元は指定しない)(30分)	
			授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。(30分)	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。	

科目名	運動器障害作業療法評価法実習					単位数	2	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	これまでに学んだ基礎的な身体機能評価法を、実際の患者(対象者)の治療場面を想定し適切に実施する事が出来る。									
一般目標	・自己紹介および対象者の氏名を確認するなどの基本的な対応を修得する。・検査、測定の方法、対象者に説明し了承を得るなどの、インフォームドコンセントに関する基本的対応を修得する。・対象者の状態に合わせた、適切な検査、測定方法を修得する。・検査、測定を適切な方法、時間内で実施する技術を修得する。・検査、測定の結果を適切に対象者に説明する技術を修得する。									
テキスト 参考書等	・標準作業療法学 作業療法評価学(医学書院) ・標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) ・作業療法技術ガイド(文光堂) ・新・徒手筋力評価法(協同医書出版社) ・臨床ROM(ヒューマン・プレス)									

到達目標
知識(認知領域) ・各評価技術に関する基本的な目的、手順、留意点を説明できる。
技術(精神運動領域) ・各評価について、その方法、場所、時間、使用機材を適切に用い実施出来る。 ・医療従事者として適切な身だしなみ(髪型、化粧、服装など)を整える事が出来る。 ・評価対象者に対し、適切な言葉使い(敬語を使用し専門用語を使用しない)、態度(目線を合わせるなど)が出来る。
態度(情意領域) ・授業に出席する。 ・主体的に授業に参加できる。学生同士で知識・技術を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	形態計測	四肢長、四肢周径測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	四肢長・周径測定の目的を復習する。ランドマーク(上前腸骨棘、膝蓋骨上縁など)を確認する。(30分) 測定誤差が生じた原因を振り返る。正確に測定するための工夫を整理する。(30分)
2	関節可動域測定①	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	テキストを通してROM測定の基本肢位・軸設定を復習する。(30分) 測定時の声かけ・説明方法を見直す。苦手関節を再練習する。(30分)
3	関節可動域測定②	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	主要関節(肩・肘・股・膝)の参考可動域を復習する。(30分) 固定・誘導の技術を整理する。(30分)
4	関節可動域測定③	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	複合関節・回旋運動の測定方法を確認する。(30分) 安全面の注意点を整理する。(30分)
5	関節可動域測定④	ROM測定の基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	これまでのROM測定手順を総復習する。(30分) 測定における一連の流れがスムーズだったかベアで評価する。(30分)
6	ROM-Tまとめ	実技の確認試験を実施。課題に対してROM-Tの一連の流れを行う事が出来る	実技試験に向けROM測定の全手順を通して確認する。(30分) 試験での課題点を整理する。(30分)
7	筋力検査①	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	テキストを通して基本肢位・抵抗方向を確認する。(30分) 判定に迷った筋の検査方法を復習する。(30分)
8	筋力検査②	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	主要筋のテスト方法を確認する。(30分) 判定に迷った筋の検査方法を復習する。(30分)
9	筋力検査③	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	重力除去位での検査を復習する。(30分) 患者設定を想定し検査する。(30分)
10	筋力検査④	MMTの基本を守り、実際の患者を想定し適切に実施できる(自己紹介、目的の説明、承諾、実施、検査結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	MMTの流れを総復習する。(30分) 検査精度・説明の分かりやすさを自己評価や他者評価する。(30分)
11	MMTまとめ	実技の確認試験を実施。課題に対してMMTの一連の流れを行う事が出来る	実技試験に向けMMT全体の手順確認する。(30分) 試験での課題点を整理する。(30分)
12	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	知覚検査の基本を守り実際の患者を想定し適切に実施できる(使用機材の選定、目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	触覚・痛覚・二点識別覚の基礎復習を行う。(30分) 検査環境設定の重要性を振り返る。(30分)
13	知覚検査(触覚、痛覚、二点識別覚)	知覚検査の基本を守り実際の患者を想定し適切に実施できる(使用機材の選定、目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	前回の指摘事項を確認する。(30分) 患者設定を想定し検査する。(30分)
14	上肢機能検査	上肢機能検査の基本を守り実際の患者を想定し適切に実施できる(使用機材の選定、目的の説明、承諾、実施、結果の説明等)。授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する)。	上肢機能検査について復習する。(30分) 検査選択の妥当性を振り返る。(30分)
15	まとめ	授業を振り返ることで、習得した知識・技術が説明できる。	これまでの評価法を総復習する。(30分) 今後の臨床実習へ向け、課題を整理する。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			50	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習		○		50	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。		

科目名	神経障害作業療法評価法A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	神経障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法評価について講義する。脳血管疾患の作業療法評価を主として、その他の神経障害に關しての作業療法評価について学習する。									
一般目標	脳の画像評価、神経障害疾患に対する作業療法評価について修得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院)									

到達目標			
知識(認知領域) 授業で取り上げた疾患に対する作業療法評価法を説明できる。			
技術(精神運動領域) 各疾患に対する作業療法評価について模倣できる。学生同士で技術の共有ができる。			
態度(情意領域) 授業に主体的に参加できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	脳の解剖生理(おさらい)	脳の解剖生理を理解し説明できる。	1年生で教わった脳の解剖(教科書)を復習する。(30分) 配布プリントを見返し、脳の各部名称を復習する(30分)
2	脳の画像評価1	脳の画像評価について理解し説明できる。	画像評価の種類を教科書を見て学ぶ(30分) 配布プリントを見返し、MRIの違いについて復習する(30分)
3	脳の画像評価2	症例脳画像について、障害部位の場所、程度、予測される症状が説明できる。	脳の解剖イラストから脳内の各部位名称と位置を把握する(30分) 画像と疾患と症状を結び付けておさらいする(30分)
4	脳血管障害の評価概要1	身体機能の評価について流れと種類が理解できる。CVAの症状も理解しながら評価の概要が説明できる。	作業療法評価の一般的な流れを教科書で把握(30分) プリントの復習(30分)
5	脳血管障害の評価概要2	身体機能の評価について流れと種類が理解できる。CVAの症状も理解しながら評価の概要が説明できる。	脳血管障害の一般的症状について教科書を調べる(30分) 教科書のP.257～269を読む(30分)
6	Br.stage、上田法	Br.stage、上田法について説明ができる。	教科書P.259表4、P260～262に目を通しておく(30分) 上記教科書をもう一度読み直す(30分)
7	Br.stage、上田法(2)	Br.stage、上田法について学生同士で評価をすることができる。お互いに知識、技術を説明できる。	前回のプリントを再度目を通す(30分) P259表4を見ながら自身でやってみる(30分)
8	脳神経検査	脳神経検査について概論が説明でき、模擬的に実施できる。	脳神経の種類について1コマ目の資料を復習(30分) 教科書P.162～168を読む(30分)
9	協調性検査	協調性の評価法、運動失調の検査について説明できる。	教科書P.154～156を読む(20分) 資料を見返し協調性検査と失調症を結び付けて理解する(40分)
10	上肢機能検査	上肢機能検査(MFTとSTEF)について説明できる。	教科書P.188～194を読んでおく(30分) 配布資料を見返し、MFTやSTEFの中身を復習する(30分)
11	反射検査	反射と筋緊張の評価について説明できる。	教科書P.133～140を読む(30分) 深部腱反射と病的反射、表在反射の検査を復習する(30分)
12	神経変性疾患と神経筋疾患	パーキンソン病、ALS、脊髄小脳変性症MS、ギランバレー症候群、重症筋無力症の作業療法評価について説明できる。	教科書P.361～P.381の中で、各疾患の定義の部分を読む(30分) PDの評価P.373表13と、P.375表15に目を通し理解する(30分)
13	嚥下の評価	嚥下障害の患者に対する作業療法評価について説明できる。	教科書P.169～172(A～C)を読み、分からない単語などを調べる(30分) 教科書P.172～177までを読んで理解する(30分)
14	SIASの評価	SIASの評価の概要を説明できる。	SIASの教科書のP.36～43を読んでおく(30分) 配布資料を見返し、SIASの評価ができるように復習する(30分)
15	まとめ	これまで授業で学習した内容に關して振り返りを行う。	これまでの資料を読み返し、分からなかった部分を見つける(30分) 全体的にプリントを見返して学習する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート	○			評価なし	
授業態度			○	10	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員					
		実務経験紹介		病院での神経筋疾患患者への作業療法実施の経験あり	

科目名	神経障害作業療法評価法B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	高次脳機能障害の基本的な検査についての基本的知識学習する。									
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷後の高次脳機能障害に対する検査について、基本的知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	神経診察クロズアップ 改訂第2版(マジカルビュー社) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学(医学書院)、絵で見る脳と神経(医学書院)									

到達目標
知識(認知領域) 授業で取り上げた検査について、その目的や内容について説明できる。
技術(精神運動領域) 高次脳機能検査の方法を習得し、学生同士で実施できる。
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。出席日数を満たす。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	脳の構造と高次脳機能障害	脳の構造と役割について理解することができる。	絵で見る脳と神経P.13～16を読む(30分) プリントを見返し、教科書も見ながら復習する(30分)
2	高次脳機能障害とは	高次脳機能障害の原因や種類、特徴、評価の流れについて理解することができる	「高次脳機能作業療法学」P.26～30を読む(30分) 資料の「大脳局所症状」について自身でまとめ覚える(30分)
3	記憶障害の評価	記憶障害に対するOT評価について、目的、種類、方法、注意点等を理解できる。	記憶障害の定義と分類についてP.56～58を読む(30分) 記憶障害の作業療法評価バッテリーをまとめる(30分)
4	注意障害の評価	注意障害に対するOT評価について、目的、種類、方法、注意点等を理解できる。	教科書P.47～50(A～C)を読む(30分) プリント資料をまとめる(30分)
5	半側空間無視の評価	半側空間無視の定義、OT評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.112～116(A～C)を読む(30分) 教科書P.116～120(D)とプリント資料を読む(30分)
6	失認の評価	失認の定義、OT評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.97～102(A～C)を読む(30分) 教科書P.102～105とプリント資料を読む(30分)
7	失認の評価	OT評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.97～102(A～C)を読む(30分) 教科書P.102～105とプリント資料を読む(30分)
8	失行(運動・行為の障害)の評価	失行の定義、OT評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.81～86を読む(30分) 教科書P.86～90を読む。配布資料をまとめる(30分)
9	遂行機能障害の評価	遂行機能障害の定義、OT評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.128～132(A～C)を読む(30分) BADSの検査項目について見返す(30分)
10	失語症の評価	失語症の分類、評価についての目的・種類・方法・注意点等を理解できる	教科書P.68～74を読む。(30分) 失語症鑑別タイプ診断について理解し、記憶する(30分)
11	自動車運転支援の評価	自動車運転の動作分析や必要な高次脳機能が抽出できる。	運転の動作分析のため、操作のイメージをしておく(20分) 教科書P.293～303を読む(40分)
12	社会的行動障害の評価	社会的行動障害の特徴と、作業療法評価の目的、方法を説明することができる。また、事例を読み、評価の解釈ができる。	教科書P.142～147(A～C)を読む 教科書P.147～152(C～E)を読む
13	棒体操の効果	一般的な棒体操の効果を知り、パーキンソン病患者への棒体操を考える。	パーキンソン病の症状と効果的な運動療法について調べる(30分) 一般的な棒体操の種類を調べる(30分)
14	摂食・嚥下評価	摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明することができる。	嚥下の解剖、生理について復習する(30分) 嚥下評価について再度復習する(30分)
15	まとめ	第1回からの資料を見返し、各項目を説明することができる。	これまでの資料を見てわからない部分を見つける(30分) これまでの資料を見て、テスト対策ノートを作成できる(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート	○			評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	臨床にて、神経障害患者への作業療法経験あり	

科目名	神経障害作業療法評価法実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レクリエーション室
授業概要	神経障害に対する基本的な検査についての基本的知識学習する。									
一般目標	脳血管障害、外傷性脳損傷、神経筋疾患患者に対する作業療法評価(身体機能や高次脳機能)について、評価技術を身に付ける。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 作業療法評価学 第3版(医学書院) 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版(医学書院) 教科書:神経診察クロズアップ 改訂第2版 (メジカルビュー社)									
到達目標										
知識(認知領域) 授業で取り上げた検査について、その目的や検査方法について説明ができる。										
技術(精神運動領域) 授業で取り上げた検査について、正確かつ迅速に実施できる。										
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。出席日数を満たす。										
回数	授業内容		授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)			
1	記憶障害の評価		記憶障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				記憶障害の定義と分類についてP.56～58を読む(30分) 記憶障害の作業療法評価バッテリーをまとめる(30分)			
2	注意障害の評価		注意障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				教科書P.47～50(A～C)を読む(30分) プリント資料をまとめる(30分)			
3	注意障害の評価		注意障害評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				教科書P.47～50(A～C)を読む(30分) プリント資料をまとめる(30分)			
4	半側空間無視の評価		半側空間無視評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				教科書P.112～116(A～C)を読む(30分) 教科書P.116～120(D)とプリント資料を読む(30分)			
5	半側空間無視の評価		半側空間無視評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				教科書P.112～116(A～C)を読む(30分) 教科書P.116～120(D)とプリント資料を読む(30分)			
6	失認(認知の障害)の評価		失認の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。				教科書P.97～102(A～C)を読む(30分) 教科書P.102～105とプリント資料を読む(30分)			
7	失認(認知の障害)の評価		失認の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。				教科書P.97～102(A～C)を読む(30分) 教科書P.102～105とプリント資料を読む(30分)			
8	失行(運動・行為の障害)の評価		失行の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。				教科書P.81～86を読む(30分) 教科書P.86～90を読む。配布資料をまとめる(30分)			
9	遂行機能障害の評価		遂行機能障害の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。				教科書P.128～132(A～C)を読む(30分) BADSの検査項目について見返す(30分)			
10	失語症の評価		失語症の評価について意義・目的・方法を説明し、実施することができる。				教科書P.68～74を読む。(30分) コース立方体検査についてやり方や結果の解釈を理解する(30分)			
11	運転支援の評価		運転支援での作業療法評価に関して、運転の動作分析とそれを行うために必要な身体機能・高次脳機能を考え、評価ポイントを理解する				運転の動作分析のため、操作のイメージをしておく(20分) 教科書P.293～303を読む(40分)			
12	社会的行動障害の評価		症例を読み、社会的行動障害のOT評価や治療について理解できる。				教科書P.142～147(A～C)を読む(30分) 教科書P.147～152(C～E)を読む(30分)			
13	棒体操		パーキンソン病患者への棒体操を考え、その方法や治療的効果をグループでまとめ、発表する。				パーキンソン病の症状と効果的な運動療法について調べる(30分) クラスメイトからの意見や自分での気づきを元に、体操案の改善点をノートにまとめる(30分)			
14	摂食・嚥下評価		摂食・嚥下評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。評価の意義・目的・方法について説明し、実施することができる。				嚥下の解剖、生理について復習する(30分) 嚥下評価について再度復習する(30分)			
15	まとめ(SIAS、反射、筋緊張評価、これまでの評価について練習する)		これまでの検査の方法について技術を習得できる				これまでの資料を見てわからない部分を見つける(30分) これまでの資料を見て、テスト対策ノートを作成できる(30分)			
成績評価方法										
		知識(認知領域)		技術(精神運動領域)		態度(情意領域)		評価割合	成績評価基準	
定期試験								評価なし	秀(4):90点以上	
小テスト								評価なし	優(3):80点以上	
宿題授業外レポート		○						90	良(2):70点以上	
授業態度						○		10	可(1):60点以上	
発表・作品								評価なし	不可(0):60点未満 未修得	
演習				○				評価なし		
出席						○		欠格条件	()内はGPA点数	
担当教員				実務経験紹介		神経障害領域の医療施設での実践経験あり				

科目名	精神障害作業療法評価法					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	精神科作業療法は作業療法の起源ともいえる領域である。精神科作業療法を理解することは作業療法そのものを理解することになる。本科目では精神障害とは何かをまず考え、そのための哲学を学び、実際にどのような評価を実施するのかを学ぶこととする。									
一般目標	精神科作業療法における評価の流れと内容を講義並びにグループワークを通して理解する。									
テキスト 参考書等	・精神障害と作業療法 新版(三輪書店)(以下、山根とする) ・作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社)(以下、GMとする) ・標準作業療法学 専門分野作業療法評価学 第3版(医学書院)									

到達目標										
知識(認知領域) ・精神科作業療法の歴史を説明することができる。・DVD鑑賞後、感じたことを表現することができる。・評価の意義・流れを説明できる。・精神科リハビリテーションの考え方を列挙し、説明することができる。・精神科作業療法はどのような構造から成り立っているか説明できる。										
技術(精神運動領域) なし										
態度(情意領域) 授業に参加できる。グループワークで協調性をもって取り組むことができる。居眠りや私語なく、授業に意欲的に取り組むことができる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション	精神科作業療法の形態や診療報酬、精神科リハビリテーションモデルを説明することができる。	教科書(GM)P8～20を読む(40分) 配布プリントを確認する(20分)
2	映画「精神」鑑賞①	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。	前回配布プリントの確認(30分) 鑑賞後の感想を書く(30分)
3	映画「精神」鑑賞②	精神障害者の病態、生活像を捉える。感想文を作成し、自身の気持ちや考えを表現することができる。	配布プリントを確認する(20分) 鑑賞後の感想を書く(40分)
4	差別と偏見	ディスカッションを通して、精神障害に対する自身の考えを表現できる。	前回の感想文を確認しておく(20分) ディスカッション内容の確認(40分)
5	精神の病の処遇の歴史と作業療法	精神科医療と精神科作業療法の歴史を説明できる。	教科書(GM)P14～20を読む(40分) 配布プリントを確認する(20分)
6	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。	教科書(山根)P86～89を読む(40分) 配布プリントを確認する(20分)
7	作業療法の治療・支援構造と治療機序	精神科作業療法の支援・治療構造について説明できる。自身が治療的にどのように利用できるか表現できる。	教科書(山根)P89～94を読む(40分) 配布プリントを確認する(20分)
8	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる・グループワーク手順説明	精神科作業療法評価の手順と意義を理解し説明できる。	教科書(山根)P156～165を読む(40分) グループワークの内容を確認する(20分)
9	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。	教科書(山根)P166～173を読む(40分) グループワークの内容を確認する(20分)
10	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。	教科書(山根)P173～181を読む(40分) グループワークの内容を確認する(20分)
11	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。	教科書(山根)P182～194を読む(40分) グループワークの内容を確認する(20分)
12	精神科作業療法評価調査(面接、作業面接、観察、他部門情報・目標設定・治療計画立案)	自身の担当項目について協調して取り組むことができる。	教科書(山根)P195～210を読む(40分) グループワークの内容を確認する(20分)
13	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。	事前配布資料を確認しておく(30分) 配布プリントを確認する(30分)
14	精神科作業療法評価調査内容発表・フィードバック	聴講者が理解しやすい表現で説明することができる。	事前配布資料を確認しておく(30分) 配布プリントを確認する(30分)
15	講義のまとめ	精神科作業療法評価の流れを説明できる。	今までの配布資料を確認しておく(30分) 配布プリントを確認する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品	○		○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		精神科病院で13年間の臨床経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。		

科目名	義肢装具学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室・木工金属陶工室	
授業概要	先天的あるいは外傷・疾病の結果による四肢欠損・切断に対して、義肢・装具を用いることで身体機能・生活機能を補い、社会生活への参加を促進する。作業療法士として、義肢装具に関する知識・技術を身につけることは必須である。この授業では、義肢装具に関する基礎的な知識を学ぶ。									
一般目標	義肢・装具の基本的な知識を習得する。 義肢の適合判定の知識・技術を習得する。 義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。 義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。									
テキスト 参考書等	ゴールドマスターテキスト 義肢装具学 適宜資料配布									

到達目標				
知識(認知領域)				
・義肢の種類、適応、適合を理解し、説明できる。 ・義肢・装具の支給にかかる制度を理解する。				
技術(精神運動領域)				
・義肢の適合判定の知識・技術を習得する。 ・義肢の装着訓練の知識・技術を習得する。				
態度(情意領域)				
提出物を期限内に提出できる。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。				
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)	
1	義肢装具とは／義肢の歴史／切断原因	義肢装具の定義について学ぶ。義肢の歴史、義肢装着に至る主たる切断原因について理解し、説明することが出来る。	テキストを用い、義肢装具の定義と切断の主な原因を予習する(30分)	講義を振り返り、義肢の歴史と装着の意義を整理する(30分)
2	義肢の種類	義肢の種類、適応について理解し説明することが出来る。	テキストを用い、義肢の基本的な構成と分類を予習する(30分)	講義を振り返り、各義肢の適応について整理する(30分)
3	義足	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。	テキストを用い、義足の種類と各部名称を予習する(30分)	講義を振り返り、義足の特徴と装着方法を整理する(30分)
4	義手の種類・特徴①	義手の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。	テキストを用い、義手の種類(装飾用、能動用など)と適応を予習する(30分)	講義を振り返り、義手の特徴と操作方法を整理する(30分)
5	義手の種類・特徴②	義足の種類、特徴、適応、装着方法について理解し説明することが出来る。	テキストを用い、筋電義手など特殊な義手について予習する(30分)	講義を振り返り、各種義手の特徴と装着方法を整理する(30分)
6	義手の適合判定	義手の適合判定について理解し説明することが出来る。	テキストを用い、義手のチェックアウト(適合判定)の項目を予習する(30分)	講義を振り返り、適合判定の基準と評価方法を整理する(30分)
7	義肢・装具の支給制度	義肢・装具の支給制度について理解し説明することが出来る。	障害者総合支援法や労災保険など、関連する福祉制度を予習する(30分)	講義を振り返り、義肢装具の支給にかかる制度の仕組みを整理する(30分)
8	義肢まとめ	義肢に関する学習を振り返り理解を深めることが出来る。	第1回～第7回までの義肢・制度に関する学習内容を総復習する(30分)	これまでの内容を振り返り、定期試験に向けた自己課題を整理する(30分)
9	装具総論、上肢・手指装具	装具の種類について理解し、説明することが出来る。上肢・手指装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。	テキストを用い、装具の目的と上肢・手指装具の名称を予習する(30分)	講義を振り返り、上肢・手指装具の適応と特徴を整理する(30分)
10	体幹・下肢装具	体幹・下肢装具について名称、各部名称、適応について理解し、説明することが出来る。	テキストを用い、体幹装具・下肢装具の名称と目的を予習する(30分)	講義を振り返り、体幹・下肢装具の適応と特徴を整理する(30分)
11	スプリント材料の種類・特徴・製作方法	カックアップスプリント製作手順を理解することが出来る。	テキストを用い、スプリント素材の特性と製作手順を予習する(30分)	講義を振り返り、カックアップスプリント製作の注意点を整理する(30分)
12	スプリント作成	カックアップスプリントの作成が出来る。	前回の資料を見直し、カックアップスプリントの製作工程をシミュレーションする(30分)	実技を振り返り、素材の扱いや型取りにおける自身の課題を整理する(30分)
13	スプリント作成	カックアップスプリントの作成が出来る。	前回の課題を踏まえ、仕上げや適合調整の手順を再確認する(30分)	完成した装具の適合性を評価し、修正点や改善点を整理する(30分)
14	スプリント作成	短対立装具、指伸展装具の作成	テキストを用い、短対立装具・指伸展装具の目的と製作手順を予習する(30分)	実技を振り返り、各装具の機能と適合のポイントを整理する(30分)
15	まとめ	装具に関する国家試験問題に取り組みつ、理解度を確認する。	義肢装具学全体の総復習を行い、疑問点を洗い出しておく(30分)	国家試験の過去問題等を通して、自身の知識の定着度を確認・整理する(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			90	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品		○		10	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として医療機関で神経疾患、運動器疾患患者への義肢装具使用経験あり(石丸)		

科目名	運動器障害作業療法学A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・レクリエーション室
授業概要	作業療法の対象となる運動器障害を持つ対象者を理解するために、代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の介入方法を修得する。 運動器障害がある対象者に作業療法を実施できるようになるために、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。									
一般目標	身体機能作業療法を実施できるようになるために代表的な治療原理を説明できる。 代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の評価と治療・指導・援助法を説明できる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版(医学書院)									

到達目標										
知識(認知領域)										
- 治療方法選択の基礎となる推論について説明できる。 - 代表的な運動器障害の評価内容、治療計画が説明できる。										
技術(精神運動領域)										
授業で得た技術を演習で実践することができる。										
態度(情意領域)										
- 授業に出席し、主体的に授業に参加できる。 - 学生同士で知識を共有しながら取り組む(アクティブラーニング)。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	運動器障害のリハビリテーションと作業療法の役割	身体機能OTの3つのアプローチ方法が言える。ボトムアップ・トップダウンアプローチについて説明できる。インフォームドコンセントについて説明できる。	p17～p20、ボトムアップとトップダウンのメリット・デメリットを把握する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
2	作業療法の過程	作業療法のプロセスを図示し、その流れを説明できる。問題点の種類を列挙し、それぞれを説明できる。目標の種類を列挙し、それぞれを説明できる。治療計画を立案するときに考慮すべき要因を挙げることができる。	p26図5を1回以上図示して流れを把握する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
3	病期・実施場所に応じた治療・指導・援助内容	5つの臨床推論の種類をあげ、それぞれを説明できる。身体機能作業療法学で用いられる治療アプローチをあげ、それぞれを説明できる。	p34～p35、臨床的推論の各推論を1読しておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
4	熱傷	熱傷の概要・評価・治療を説明できる。熱傷症例に対する作業療法士的な関わりを説明できる。	p321～p330を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
5	加齢性関節疾患	加齢性関節疾患の概要・評価・治療を説明できる。加齢性関節疾患症例に対する作業療法士的な関わりを説明できる。	p253～p259を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
6	腰痛症	腰痛症の概要・評価・治療を説明できる。腰痛症症例に対する作業療法士的な関わりを説明できる。	p351～p355を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
7	関節リウマチ①	臨床症状を列挙できる。関節リウマチに関わるStage分類・Class分類を説明できる。標準的な評価項目と方法(内容)を説明できる。	関節リウマチの代表的な関節変形について把握する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
8	関節リウマチ②(類似疾患)	全身性エリトマトーデス、多発性筋炎、皮膚筋炎の疾患概要が説明できる。	p273～p277を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
9	運動器疾患に対する評価①(演習)	運動器疾患に対する評価について理解を深め説明することができる。	運動器疾患に対する評価を調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
10	運動器疾患に対する評価②(演習)	学習した運動器疾患に対する評価をグループでまとめ、全体発表を実施することができる。	グループワークでの役割を把握し円滑に遂行できるように準備する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
11	脊髄損傷①(概要・評価)	伝導路と解剖を全て理解し、脊損疾患症状を予測することができる。脊髄損傷における評価を理解し、説明することができる。	p214～p220を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
12	脊髄損傷②(治療・指導)	脊髄損傷の残存機能レベルに合わせた作業療法を立案できる。	p221～p233を1読し、語句の意味が分からない場合は調べておく。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
13	脊髄損傷③(演習)	模擬症例を通してグループで作業療法計画の立案を行うことができる。	ザンコリ分類を説明できるようにする。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
14	脊髄損傷④(演習)	模擬症例を通してグループで作業療法計画の立案を行うことができる。	グループワークでの役割を把握し円滑に遂行できるように準備する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。
15	脊髄損傷⑤(演習)	グループで立案した内容をまとめ、全体発表を実施することができる。	グループワークでの役割を把握し円滑に遂行できるように準備する。 授業資料の復習やまとめ作業を個人やグループで行う。

成績評価方法						
		知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験		○			90	秀(4):90点以上
小テスト					評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート					評価なし	良(2):70点以上
授業態度					評価なし	可(1):60点以上
発表・作品			○		10	不可(0):60点未満 未修得
演習					評価なし	()内はGPA点数
出席				○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。		

科目名	運動器障害作業療法学B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	運動器障害がある対象者に作業療法を実施できるようになるために、作業療法の評価技法と治療・指導・援助法を修得する。									
一般目標	代表的な疾患の病態を理解し、作業療法の評価と治療・指導・援助法を説明できる。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学第4版(医学書院) 図解 作業療法技術ガイド(文光堂)									

到達目標			
知識(認知領域) 代表的な運動器疾患の評価内容、治療計画が説明できる。			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 授業に出席する。 主体的に授業に参加できる。学生同士で知識を共有しながら取り組み、疑問点は教員に聞くことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	骨関節疾患①(骨折総論)	骨折の総論について説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	骨折の総論についてテキストを予習する。(30分) 骨折の総論に関する知識を復習する。(30分)
2	骨関節疾患②(大腿骨骨折等)	大腿骨骨折等の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	大腿骨骨折等の病態について予習する。(30分) 大腿骨骨折等の評価と介入を復習する。(30分)
3	骨関節疾患④(上腕骨の骨折等)	上腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	上腕骨骨折等の病態について予習する。(30分) 上腕部疾患の評価と介入を復習する。(30分)
4	骨関節疾患⑤(腓板断裂等)	腓板断裂の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	腓板断裂等の病態について予習する。(30分) 腓板断裂等の評価と介入を復習する。(30分)
5	骨関節疾患⑥(肘、前腕骨折等)	肘、前腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	肘・前腕骨折等の病態について予習する。(30分) 肘・前腕部疾患の評価と介入を復習する。(30分)
6	骨関節疾患⑦(肘、前腕骨折等)	肘、前腕部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	前回到続き、肘・前腕骨折等について予習する。(30分) 肘・前腕部疾患の評価と介入を再復習する。(30分)
7	骨関節疾患⑧(手関節、手指骨折等)	手部の骨関節疾患の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	手関節・手指骨折等の病態を予習する。(30分) 手関節疾患の評価と介入を復習する。(30分)
8	ハンドセラピー(モダリティプログラム)	ハンドセラピーに関する評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	ハンドセラピーの基礎について予習する。(30分) ハンドセラピーの評価と介入を復習する。(30分)
9	腱損傷(屈筋腱)	腱損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	屈筋腱損傷の病態について予習する。(30分) 屈筋腱損傷の評価と介入を復習する。(30分)
10	腱損傷(伸筋腱)	腱損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	伸筋腱損傷の病態について予習する。(30分) 伸筋腱損傷の評価と介入を復習する。(30分)
11	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	末梢神経損傷の基礎について予習する。(30分) 末梢神経損傷の評価と介入を復習する。(30分)
12	末梢神経損傷①	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	前回到続き、末梢神経損傷について予習する。(30分) 授業で扱った末梢神経損傷の評価と介入を復習する。(30分)
13	末梢神経損傷②	末梢神経損傷の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	末梢神経損傷における各論について予習する。(30分) 新たに学んだ末梢神経損傷の評価と介入を復習する。(30分)
14	末梢神経損傷③(知覚再教育)	知覚の評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	知覚再教育の基礎について予習する。(30分) 知覚の評価と介入方法について復習する。(30分)
15	CRPS(複合性局所疼痛症候群)	CRPSの評価・介入を説明できる。 主体的に授業に参加し、積極的に質問できる。	CRPSの病態と特徴についてテキストを予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として約25年間、整形外科関連の医療施設に勤務した経験を有する。	

科目名	神経障害作業療法学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	神経障害領域の作業療法の基礎知識および作業療法の知識について学習する。									
一般目標	・脳血管障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 ・高次脳機能障害を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。 ・中枢神経系の変性疾患を有する方に作業療法を実施する際の知識を学習する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 第2版									

到達目標			
知識(認知領域) 各疾患の基礎知識、作業療法の目的・意義を説明できる。			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	脳血管障害の基礎知識についてテキストを予習する。(30分) 脳血管障害の症状と評価法について復習する。(30分)
2	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	前回到続き、脳血管障害の作業療法を予習する。(30分) 脳血管障害に対する治療法について復習する。(30分)
3	脳血管障害の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	脳血管障害の作業療法の臨床応用について予習する。(30分) 脳血管障害の作業療法プログラム全体を復習する。(30分)
4	脳血管障害の作業療法(失語症に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	失語症の症状と分類についてテキストを予習する。(30分) 失語症の評価法と治療アプローチを復習する。(30分)
5	脳血管障害の作業療法(失行(運動・行為の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	失行の症状とメカニズムについて予習する。(30分) 失行に対する評価法と具体的な治療法を復習する。(30分)
6	脳血管障害の作業療法(失認(対象認知の障害)に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	失認の症状と種類について予習する。(30分) 失認の評価と作業療法アプローチを復習する。(30分)
7	脳血管障害の作業療法(半側空間無視に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	半側空間無視の症状とメカニズムを予習する。(30分) 半側空間無視の評価と治療法を復習する。(30分)
8	脳血管障害の作業療法(記憶障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	記憶障害の症状と種類について予習する。(30分) 記憶障害に対する評価と作業療法を復習する。(30分)
9	脳血管障害の作業療法(注意障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	注意障害の症状についてテキストで予習する。(30分) 注意障害の評価法と治療プログラムを復習する。(30分)
10	脳血管障害の作業療法(遂行機能障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	遂行機能障害の症状と日常生活への影響を予習する。(30分) 遂行機能障害に対する評価と治療法を復習する。(30分)
11	脳血管障害の作業療法(社会的行動障害に対する作業療法)	症状、評価法、治療法について説明できる。	社会的行動障害の症状と特徴を予習する。(30分) 社会的行動障害の評価と対応方法を復習する。(30分)
12	パーキンソン病の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	パーキンソン病の4大症状について予習する。(30分) パーキンソン病の進行度に応じた治療法を復習する。(30分)
13	筋萎縮性側索硬化症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	筋萎縮性側索硬化症(ALS)の症状と特徴を予習する。(30分) ALSに対する代償的アプローチや環境調整を復習する。(30分)
14	脊髄小脳変性症の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	脊髄小脳変性症の運動失調などの症状を予習する。(30分) 脊髄小脳変性症の評価と作業療法を復習する。(30分)
15	神経筋疾患の作業療法	症状、評価法、治療法について説明できる。	神経筋疾患の概要についてテキストを予習する。(30分) 各疾患の評価・治療法を総復習し、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数
小テスト				評価なし	
宿題授業外レポート				評価なし	
授業態度			○	評価なし	
発表・作品				評価なし	
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	
担当教員			実務経験紹介	神経障害関連施設で作業療法実施経験あり	

科目名	精神障害作業療法学A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	本科目で、精神科作業療法実践のための理論、治療法、関連法規、社会資源を理解し、精神障害者に対する支援のための前提知識習得を目指す。									
一般目標	作業療法士としてクライアントを理解する手法と共に自己理解を促す手法を身につける。精神科作業療法実践の理論、治療法の概要を説明できる。関連法規、社会資源の知識を習得し、それらの概要を説明できる。									
テキスト 参考書等	精神障害と作業療法 新版(三輪書店) 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 精神障害作業療法学 第3版(メジカルビュー社)									

到達目標										
知識(認知領域) ・自身の対人パターンや集団内における自身の居場所を客観的に捉えることができる。・ひとの集団関係技能を発達的に理解し、説明できる。・集団療法の効果とその構造を理解し説明できる。・自己実現理論を通して、人が成長し老いることのプロセスを自分なりに表現することができる。・作業療法評価における代表的なアセスメント法の使い方を理解し、実践することで概要を説明することができる。精神科作業療法に関連する治療法、関連法規、社会資源にどのようなものがあるかを列挙し説明できる。										
技術(精神運動領域) ・なし										

態度(情意領域)										
・セラピストとして必要な基本的治療的態度を身につけ、演習で実践できる。居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。										
回数	授業内容	授業目標						事前学習(上段)・事後学習(下段)		
1	オリエンテーション、交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラム	交流分析法(エゴグラム)、ソシオグラムを体験的に理解し、自己理解、他者理解できる。						前期の授業内容を復習する(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
2	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。						教科書P58～66を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
3	セラピストに必要な治療的態度	セラピストに必要な治療的態度(傾聴、共感的理解、受容)を体験的に理解し、要点を説明することができる。						前回の配布プリントを復習する(30分)		
								傾聴、受容、共感についての復習をする(30分)		
4	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。						教科書P74～77を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
5	回復状態に応じた作業療法(急性期・回復期・生活期)	急性期・回復期・生活期における作業療法の役割を説明できる。						教科書P372～373の確認(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
6	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子	Moseyの集団関係技能、集団治療因子、集団構造因子といった集団に関する知識を得、各項目の意味を説明することができる。						教科書P122～127を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
7	パラレル作業療法	精神科作業療法における重要な場「パラレル作業療法」を体験し、内面に起こる心情を言語化し、説明できる。						教科書P127～129を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
8	認知行動療法、自動思考	認知行動療法、自動思考の概要を説明することができる。						教科書P64～66を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
9	認知行動療法、WRAP(クラインスプラン)	認知行動療法、WRAPの概要を説明することができる。						前回の配布プリントを復習する(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
10	心理教育、病識、家族研究、薬物療法	心理教育、病識、家族研究、薬物療法といった精神科領域における治療法を列挙し、それぞれの概要を説明することができる。						教科書P346～347を読む(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
11	マズロー自己実現理論、情報処理理論	マズロー自己実現理論、情報処理理論の概念を理解し、説明することができる。						前回の配布プリントを復習する(30分)		
								配布プリントの復習(30分)		
12	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。						教科書P157～を読む(30分)		
								グループワークの進捗状況の確認(30分)		
13	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。						前回のグループワークの進捗を確認(30分)		
								グループワークの進捗状況の確認(30分)		
14	精神科作業療法領域に関連する治療・援助の場	外来作業療法、精神療養病棟、グループホーム、精神科訪問看護、就労支援、障害年金の概要を調査し、資料にまとめ、説明することができる。						前回のグループワークの進捗を確認(30分)		
								グループワークの進捗状況の確認(30分)		
15	講義のまとめ	本科目で履修した項目を列挙し、それらを説明することができる。						グループワークの進捗状況の確認(30分)		
								配布プリントの確認(30分)		

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度			○	評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	精神科病院で13年勤務経験あり。臨床実習指導者講習会、理学療法士・作業療法士専任教員養成講習会受講。	

科目名	高齢期作業療法学					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	高齢期を迎えた対象者の心身機能の変化や、疾病等によって生活上の動作・行為に支障をきたした場合に作業療法士がどのように介入するのか座学で学ぶ。また、これからの高齢化社会において我々作業療法士の役割について講義と演習によって学ぶ。									
一般目標	高齢社会といわれる我が国の現状をふまえ、高齢期の心身の変化や障害に対する知識を習得する。また、高齢者に対する作業療法の評価や訓練方法の知識を習得する。									
テキスト 参考書等	標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版(医学書院)									

到達目標										
知識(認知領域) ・高齢期の心身の変化や障害について説明ができる。 ・高齢者に対する作業療法について説明できる。										
技術(精神運動領域) ・高齢者に対する一般的な評価が模倣にて実施できる。										
態度(情意領域) ・毎回の授業に積極的に参加できる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション 高齢社会と課題・社会制度	高齢期作業療法学を学ぶ目的、高齢化社会の課題とOTの今後の役割が説明できる 社会保障制度の歴史を概説できる	高齢社会の現状と課題をテキストで予習する。(30分) 高齢社会におけるOTの役割を復習する。(30分)
2	高齢者の生理的・身体的変化	高齢者の生理的・身体的変化について理解し、説明できる	高齢者の生理的な変化をテキストで確認する。(30分) 加齢に伴う身体的変化の要点を復習する。(30分)
3	高齢者の生理的・身体的変化 高齢者の精神的・心理的变化	高齢者の生理的・身体的変化について理解し、説明できる 高齢者の精神的・心理的变化について理解し、説明できる	高齢者の心理的变化について予習する。(30分) 精神的・心理的变化の基礎を復習する。(30分)
4	認知症について 高齢者体験	認知症背柵について、高齢者の薬物療法について説明できる 高齢者の身体的特徴を体験し、高齢者の気持ちに寄り添うことができる	認知症の基礎知識をテキストで予習する。(30分) 高齢者体験の気づきと配慮を振り返る。(30分)
5	老年症候群・フレイル・サルコペニア	認知症に関する一般的な疾患や症候群について説明できる	老年症候群等の用語をテキストで確認する。(30分) フレイル・サルコペニアの定義を復習する。(30分)
6	認知症・MCIの特徴と治療	認知症・MCIの特徴と治療についてグループでまとめ、説明できる	認知症についてをテキストで予習する。(30分) 各種の認知症の違いを表で整理し復習する。(30分)
7	認知症の評価	認知症の一般的な評価を知り説明でき、その一部を体験することができる。	認知症の評価には何があるかをテキストで確認する。(30分) 実施した評価の意味とカットオフ値を覚える。(30分)
8	認知症の作業療法について	認知症の一般的な作業療法について説明できる。	認知症へのOTアプローチを予習する。(30分) 認知症に対するOTの基本を復習する。(30分)
9	認知症の介入方法について	ユマニチュードについて説明できる。回想法やリアリティオリエンテーションについて説明できる。	リアリティーオリエンテーションについて調べる。(30分) 各介入技法の目的と内容を復習する。(30分)
10	認知症の介入方法について	ユマニチュードの動画視聴、回想法やリアリティオリエンテーションのグループでの計画	前回の介入方法の内容を再確認する。(30分) 回想法等の計画立案の要点を復習する。(30分)
11	人権と尊厳 援助者のための一般的注意	人権と尊厳を説明でき、そのかわり方を説明できる 高齢者に対する基本的態度、高齢者のリスク管理等について理解し、説明できる	高齢者の人権とリスク管理を予習する。(30分) 援助者としての基本的態度を復習する。(30分)
12	病期や実施場所の違いによる作業療法	病期や実施場所による作業療法の治療や援助について説明できる(特に認知症)。	実施場所によるOTの違いを予習する。(30分) 病期に応じた支援のポイントを復習する。(30分)
13	健康高齢者へのOTの役割 国家試験対策	健康高齢者の地域でのOTの役割を知る。また必要な評価を列挙でき、関連する国家試験問題を解くことができる。	健康高齢者への支援をテキストで予習する。(30分) 関連する国家試験過去問を復習する。(30分)
14	事例検討	グループで模擬事例の治療プログラムを立案することができる	評価結果から計画を立てる手順を確認する。(30分) 立案したプログラムの妥当性を復習する。(30分)
15	事例発表 まとめ	グループで立案したプログラムを発表することができ、他のグループの発表を聞き、視野や考え方を学ぶことができる。 授業のまとめ(疑問点は調べ学習や質疑応答にて解決する)	発表資料の最終確認と準備を行う。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品			○	評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	介護老人保健施設で勤務経験あり	

科目名	地域作業療法学					単位数	1	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	地域(在宅)で安心してその人らしい暮らしができるように作業療法士やその他の業種で連携して支援するの仕組みや施策を学ぶ。									
一般目標	地域作業療法を支えている制度や施策を知る。それらを背景とした作業療法の実践を身につける。臨床実習Ⅰ(地域実習)において通所・訪問・精神科デイケアの機能を理解したうえで臨むことができる。									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)									

到達目標										
知識(認知領域) ・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について説明できる。 ・地域作業療法の実践事例が挙げられる。										
技術(精神運動領域) ・現在の社会保障制度(介護保険法、障害者総合支援法)について調べる。 ・地域作業療法の実践事例をまとめる。										
態度(情意領域) ・授業に意欲的な態度で参加できる。 ・授業に参加できる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション、地域作業療法の概念	「地域」の概念を説明できる。地域の様々な社会資源について説明できる。 ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンの違いについて説明できる。	地域作業療法の概念をテキストで予習する。(30分) ノーマライゼーション等の用語を復習する。(30分)
2	バリアフリー新法について バリアフリーコンフリクト体験	バリアフリー新法について説明できる。 バリアフリーコンフリクトについて体験学習を通して理解することができる。	バリアフリー新法の概要をテキストで確認する。(30分) 体験を通じたコンフリクトの学びを記録する。(30分)
3	社会保障制度について	社会保障制度について説明できる。 障害者総合支援法についてグループワークを通して学び、説明できる。	社会保障制度と障害者総合支援法を予習する。(30分) 制度の仕組みと対象者について復習する。(30分)
4	介護保険と地域包括支援セン	介護保険について説明できる。地域包括支援センターについて説明できる。 国家試験問題を解き、必要な知識を認識することができる。	介護保険制度の基本構造をテキストで予習する。(30分) 地域包括支援センターの役割を復習する。(30分)
5	多職種連携・デイケアについて	多職種連携・デイケアについて説明できる。 デイケアについてグループで調べ、知識を深めることができる。	連携に必要な多職種の専門性を予習する。(30分) デイケアの機能と多職種連携の要点を復習する。(30分)
6	グループ発表	調べ学習と発表ができ、他のグループの発表を聞き、知識を深めることができる。	発表に必要な資料を整理し予習する。(30分) 他グループの発表内容をまとめ知識を整理する。(30分)
7	地域作業療法の実践事例① (外部講師)	産業作業療法について。企業に関わり、職業病の予防、改善に取り組んでいる作業療法士から学ぶ。	産業作業療法(リハビリテーション)についてネット等を利用し学習しておく(30分) 職業特有の職業病について復習する(30分)
8	地域作業療法の実践事例② (外部講師)	産業作業療法について。企業に関わり、職業病の予防、改善に取り組んでいる作業療法士から学ぶ。	産業作業療法(リハビリテーション)についてネット等を利用し学習しておく(30分) 職業特有の職業病について復習する(30分)
9	地域作業療法の実践事例③ (外部講師)	訪問リハビリについて。訪問リハビリテーションで作業療法を実践されている作業療法士から学ぶ。	訪問リハの制度的背景をテキストで予習する。(30分) 在宅におけるOTの関わりを復習する。(30分)
10	地域作業療法の実践事例④ (外部講師)	OTの企業について。訪問看護・企業を实践されている作業療法士から学ぶ。	訪問看護ステーションの機能を予習する。(30分) OTの起業や企業での役割を復習する。(30分)
11	地域作業療法の実践事例⑤ (外部講師)	精神科デイケアについて。精神科デイケアで作業療法を实践されている作業療法士から学ぶ。	精神科デイケアの基準をテキストで予習する。(30分) 精神科領域での地域支援を復習する。(30分)
12	地域作業療法の実践事例⑥ (外部講師)	就労支援を实践されている作業療法士から学ぶ。	就労支援の制度と種類をテキストで予習する。(30分) 就労支援における評価と介入を復習する。(30分)
13	地域作業療法の実践事例⑦ (外部講師)	就労支援を实践されている作業療法士から学ぶ。	就労支援の事例をテキストで確認し予習する。(30分) 実際の支援プロセスと連携を復習する。(30分)
14	地域作業療法の実践事例⑧ (外部講師)	社会福祉制度と事例。福祉領域で実践されている作業療法士から学ぶ。	社会福祉制度の基礎をテキストで予習する。(30分) 福祉領域におけるOTの職能を復習する。(30分)
15	講義のまとめ	本科目で習得した知識を基に、地域における作業療法士の役割を説明できる。	これまでの全講義内容をテキストで予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			47	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート	○			53	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介			介護老人保健施設で9年の勤務経験あり	

科目名	地域作業療法学実習					単位数	1	時間数	30	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室
授業概要	作業療法の対象領域として地域作業療法是、今後さらに広がりをもせる領域である。そのような領域で作業療法士として活躍するために必要な知識と具体的な実践事例を学ぶ。									
一般目標	地域作業療法の役割を学び、作業療法を実践するための計画立案を身につける。									
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション論 Ver.8(三輪書店)、地域リハビリテーション学(羊土社)									

到達目標										
知識(認知領域) ・地域作業療法の役割を説明できる。										
技術(精神運動領域) ・ケアプランが作成できる。										
態度(情意領域) 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。										
回数	授業内容		授業目標				事前学習(上段)・事後学習(下段)			
1	オリエンテーション 地域支援事業について		地域支援事業について説明できる				テキストの地域支援事業の項を読み予習する。(30分)			
							地域支援事業の種類と役割を整理し復習する。(30分)			
2	介護予防事業と地域リハ実践		宇部市における実践(一体的実施事業ものづくり講座)				宇部市の一体的実施事業について予習する。(30分)			
							ものづくり講座の体験から得たことを記録する。(30分)			
3	介護予防事業と地域リハ実践		介護老人保健施設における集団療法を計画することができる(グループワーク)				老健における集団療法の基礎知識を予習する。(30分)			
							集団療法の計画立案のポイントを復習する。(30分)			
4	介護予防事業と地域リハ実践		介護老人保健施設における集団療法を実施する準備ができる(グループワーク)				集団療法実施に必要な準備物の確認をする。(30分)			
							次回の原稿などを作成する。(30分)			
5	介護予防事業と地域リハ実践		介護老人保健施設における集団療法を実施することができる(グループワーク)				集団療法を実施するための準備をする。(30分)			
							実施や見学したことによる気付きを記録する。(30分)			
6	介護予防事業と地域リハ実践		対象者の生活史を聞き出す方法について説明でき、回想法を実施できる				生活史の聴取方法と回想法を予習する。(30分)			
							回想法の実践手順と留意点を復習する。(30分)			
7	介護予防事業と地域リハ実践		山陽小野田市における実践(わたしと)				山陽小野田市の「わたしと」を予習する。(30分)			
							地域における独自の支援体制を復習する。(30分)			
8	介護予防事業と地域リハ実践		山陽小野田市における実践(わたしと) 働く場所の選択肢の紹介				就労支援と働く場所の選択肢を予習する。(30分)			
							職域における作業療法の可能性を復習する。(30分)			
9	介護予防事業と地域リハ実践		宇部市における実践(短期集中サービス事業・セルフマネジメント)				短期集中サービスとセルフマネジメントを予習。(30分)			
							自立支援に向けた指導方法を復習する。(30分)			
10	ケアプランについて		ケアプランについて説明できる				ケアプランとは何か予習する。(30分)			
							ケアプランの項目を確認する。(30分)			
11	ケアプラン読み取り		ケアプランを読み、通所リハビリテーション計画書作成に必要な評価項目を列挙でき、情報収集できる。				ケアプランを読み込んでおく。(30分)			
							計画書作成にあたり、不足している評価項目を列挙しておく。(30分)			
12	リハビリテーション計画書作成(通所)		ケアプランと情報収集から、通所リハビリテーション計画書を作成できる(グループワーク)				通所リハ計画書の書式と項目を予習する。(30分)			
							情報収集に基づく計画立案手順を復習する。(30分)			
13	リハビリテーション計画書作成(通所)		ケアプランと情報収集から、通所リハビリテーション計画書を作成できる(グループワーク)				通所リハにおける目標設定方法を予習する。(30分)			
							計画書作成における整合性を復習する。(30分)			
14	リハビリテーション計画書作成(通所)		作成した通所リハビリテーション計画書を発表し、他のグループの発表を聞き、考え方を深めることができる。				計画書の発表資料と提示方法を準備する。(30分)			
							計画書作成や発表による気付きを記録する。(30分)			
15	まとめ		地域作業療法学実習の学習内容を理解し説明できる				全14回までの学習範囲から疑問点を列挙する。(30分)			
							疑問点を自己学習や質疑応答にて解決し、期末試験に備える。(30分)			

成績評価方法						
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準	
定期試験				評価なし	秀(4):90点以上 優(3):80点以上 良(2):70点以上 可(1):60点以上 不可(0):60点未満 未修得 ()内はGPA点数	
小テスト				評価なし		
宿題授業外レポート		○		70		
授業態度				評価なし		
発表・作品			○	30		
演習				評価なし		
出席			○	欠格条件		
担当教員		実務経験紹介	作業療法士として介護老人保健施設に勤務経験あり			

科目名	生活環境論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・ADL教室
授業概要	住環境整備について基礎的知識を学習する。 福祉用具について基本的な知識を学習する。									
一般目標	住宅改修に必要な基礎知識を習得できる。 住宅改修事例を通して、作業療法士に必要な生活と住環境の捉え方に関する知識を身に付ける。 各種の福祉用具を実際に使用することで、その目的や内容に関する知識を身に付ける。									
テキスト 参考書等	15レクチャーシリーズ ADL・実習 (中山書店)									

到達目標			
知識(認知領域) 福祉用具について説明できる。 住宅改修について説明できる。			
技術(精神運動領域) 福祉用具を制作することができる。 簡単な図面が作成でき、改修ポイントを提案できる。			
態度(情意領域) グループワークへ協動的に参加できる。提出物を期限内に提出できる。 居眠りや私語することなく、意欲的に授業に取り組むことができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	オリエンテーション 福祉用具とは	福祉用具の定義・制度・法律について	テキストの福祉用具の定義を予習する。(30分) 福祉用具の制度と法律の基礎を復習する。(30分)
2	福祉用具について	歩行補助具について説明できる	歩行補助具の種類について予習する。(30分) 各種歩行補助具の特徴と適応を復習する。(30分)
3	福祉用具について	ベッドについて説明できる	ベッドの種類について予習する。(30分) ベッドの種類と適応を復習する。(30分)
4	福祉用具について	車椅子・移乗について説明でき、実際に移乗動作を実施できる	車椅子・移乗の種類について予習する。(30分) 車椅子・移乗の種類と適応を復習する。(30分)
5	福祉用具について	リフトについて説明できる	ベッドや移乗用具の基本構造を予習する。(30分) リフトを用いた移乗の留意点を復習する。(30分)
6	福祉用具の使用方法的確認	リフトの使用方法和それに伴う介助方法について体験し、方法を習得できる	移乗介助の基本動作を予習し確認する。(30分) リフト操作の手順を復習する。(30分)
7	福祉用具について	自助具を作成できる	自助具の定義と目的について予習する。(30分) 自助具製作の工程と留意点を復習する。(30分)
8	福祉用具の使用方法的確認	リフト体験の続きと、コミュニケーションツールの使用練習	リフト操作の安全確認事項を予習する。(30分) コミュニケーションツールの操作を復習する。(30分)
9	住宅改修の基礎知識	住宅改修の基礎知識を説明できる	住環境整備の基本原則を予習する。(30分) 住宅改修に必要な基礎知識を復習する。(30分)
10	住宅改修の応用	住宅改修の応用的な知識を説明できる	介護保険の住宅改修について記載されている内容を読んでおく。(30分) 住宅改修の介護保険の適応を復習する。(30分)
11	住宅改修のプラン検討	これまでの住宅改修の知識を活かし、住宅改修のプランをグループで検討することができる	事例に対する改修の考え方を予習する。(30分) グループで検討したプランを発表用にまとめる。(30分)
12	福祉用具について	3Dプリンターを用いた自助具作成を見学、体験できる	3Dプリンターの基本概念を予習する。(30分) 3Dプリンター製自助具の特徴を復習する。(30分)
13	車椅子での環境	車椅子が有効に使用できる環境について実演を通して学ぶことができる。	車椅子移動の障壁となる環境を予習する。(30分) 車椅子駆動の留意点を復習する。(30分)
14	住宅改修のプラン発表	住宅改修のプランをグループ発表し、他グループの発表を聞き、様々な考え方を知ることができる	発表用資料の構成を再確認し予習する。(30分) 他群の発表内容を振り返り知識を深める。(30分)
15	まとめ・国家試験対応のための補足	国家試験に対応するための知識の補足、再確認 これまでの授業のまとめ(疑問点は自己学習や質疑応答にて解決する)	全体の学習範囲をテキストで予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート		○		評価なし	良(2):70点以上
授業態度			○	評価なし	可(1):60点以上
発表・作品		○		評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として9年勤務し、福祉用具の提案および住環境調整の経験あり。	

科目名	生活行為向上マネジメント論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	OT 2年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	401教室
授業概要	国や日本作業療法士協会は生活行為向上マネジメント(MTDLP)を活用した実践を求めている。MTDLPは作業療法士として必須のツールと考えられる。本科目ではMTDLPの背景や意義、プロセスを理解し、演習を通じて、臨床実習で実践できることを目指す。								
一般目標	生活行為向上マネジメントのプロセスを理解する。								
テキスト 参考書等	事例で学ぶ生活行為向上マネジメント(一般社団法人日本作業療法士協会編著) その他 適宜、プリント配布								

到達目標				
知識(認知領域) MTDLPの意義やプロセスを説明できる。				
技術(精神運動領域) 認知領域で得た知識や考え方を基に、自身の考えを表現、説明できる。				
態度(情意領域) 面接演習では節度ある態度で臨むことができる。				
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)	
1	生活行為向上マネジメント(MTDLP)概論	MTDLPの背景や意義を説明できる。生活行為と生活障害について説明できる。	MTDLPとは何か教科書で確認する。(30分) 生活行為と生活障害について復習する。(30分)	
2	人的環境と物的環境について	環境因子について人的と物的環境を列挙でき、援助の方法のための視野を広げることができる。	環境因子の基礎知識をテキストで予習する。(30分) 援助に必要な環境因子の視点を復習する。(30分)	
3	MTDLPの流れと各シートの説明と例題②	①生活行為聞き取りシート②生活行為アセスメント演習シート③生活行為向上プラン演習シート④興味・関心チェックシート⑤生活行為課題分析シート⑥生活行為申し送り表の内容やプロセスを説明できる。	各種演習シートの項目と役割を予習する。(30分) 各シートの使用する順番を整理し復習する。(30分)	
4	面接練習(生活行為聞き取りシート・興味関心チェックリスト)	生活行為向上マネジメント実施において重要な、「意味ある作業」を聞きだすための面接や評価を練習し、必要なスキルを体感できる。	意味ある作業を聞き出す質問を考えておく。(30分) 面接演習での自身の態度やスキルを振り返り、気付きを記録する。(30分)	
5	自分の生活でのプラン作成練習	自身を対象者として、MTDLPでの目標設定ができる。	自身の生活課題をMTDLPの視点で予習する。(30分) 自身の生活に対する目標設定方法を復習する。(30分)	
6	模擬症例でのプラン作成練習(グループワーク)	合意目標を設定するためのプロセスを体験することができる。	必要な準備物を確認する。必要な評価を列挙する。(30分) 得られた情報をICF形式で整理する。(30分)	
7	模擬症例でのプラン作成練習(グループワーク)	MTDLPでのプログラム作成ができ、発表できる。	合意目標に対する工程分析を行っておく。(30分) 発表を聞き、学んだことを記録する(提出課題)。(30分)	
8	実践事例紹介	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。	臨床でのMTDLP活用事例を予習する。(30分) 事例におけるMTDLPの有用性を復習する。(30分)	
9	実践事例紹介	MTDLPを活用した介入の実際を知り、その有用性を説明できる。	介入プロセスの全体像をテキストで予習する。(30分) 提示された事例の展開と成果を復習する。(30分)	
10	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	事例情報のアセスメント方法を予習する。(30分) シートへの情報整理のポイントを復習する。(30分)	
11	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	適切な支援方法の考案プロセスを予習する。(30分) 立案したプランの具体性を振り返り復習する。(30分)	
12	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	課題分析シートの記入法を予習確認する。(30分) 演習で学んだ支援方法の根拠を復習する。(30分)	
13	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	他者の視点を取り入れたプラン修正を予習する。(30分) 演習事例の個性と共通点を整理し復習する。(30分)	
14	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	申し送り表の作成方法を予習確認する。(30分) 一連の演習シートの整合性を確認し復習する。(30分)	
15	MTDLP演習	事例の情報をアセスメントシートに整理し、プランシートを基に適切な支援方法を考案することができる。	MTDLPの全プロセスをテキストで予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)	

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	MTDLP基礎研修了、MTDLP指導者	

科目名	臨床実習Ⅰ（地域実習）					単位数	1	時間数	40	
授業形態	実習	対象学生	OT 2年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・県内各実習施設
授業概要	2020年度指定規則改正により、通所リハ、訪問リハでの実習が義務付けられた。これは、地域におけるセラピストの活躍が求められているといえる。本実習では社会人として、医療人としての基本的態度を修得するとともに、通所リハ、訪問リハ、精神科デイケアの機能を理解することを求める。また、地域で暮らすためにはどのような支援が必要か考えることを求める。									
一般目標	医療人を志すにふさわしい自主性、積極性、社会性を養うとともに通所リハ、訪問リハ、精神科デイケアの機能を理解し、説明（レポートで表現）することができる。									
テキスト 参考書等	臨床実習Ⅰガイドブック									

到達目標	
知識（認知領域） 通所リハ、訪問リハ、精神科デイケアの機能を理解し、レポートにまとめることができる。（成績評価の対象）	
技術（精神運動領域） 実習課題に取り組むことができ、必要な書類を提出できる。（成績評価の対象）	
態度（情意領域） 常識的態度や責任ある行動をとることができる。意欲的に取り組む姿勢（探求心・創造性）をもつことができる。 自らが設定した行動目標を達成するために取り組むことができる（成績評価の対象）。	

回数	授業内容	授業目標	事前学習（上段）・事後学習（下段）
1	各実習施設での実習	実習期間：2025年7月28日（月）～8月8日（金）5日間 通所リハビリテーション、訪問リハビリテーションでの実習を経験する。	「臨床実習Ⅰガイドブック」を熟読し、実習の目的・注意事項を理解しておくこと。通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション、精神科デイケアの役割・機能を復習すること
2		成績評価方法として、実習終了後に、実習全体の感想や実習先の紹介、利用者との関わりで得られたことを指定の様式にまとめて発表する。それを担当教員が評価する。	実習で経験した内容および学びを整理し発表に向けて内容を構成し、適切に準備すること。
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

成績評価方法					
	知識（認知領域）	技術（精神運動領域）	態度（情意領域）	評価割合	成績評価基準
定期試験				評価なし	秀（4）：90点以上
小テスト				評価なし	優（3）：80点以上
宿題授業外レポート	○	○		50	良（2）：70点以上
授業態度				評価なし	可（1）：60点以上
発表・作品	○			50	不可（0）：60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	（ ）内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		作業療法士として身体障害分野の病院で実務経験がある。		

科目名	臨床実習セミナーⅠ					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	OT 2年	学期	前期・後期	教員実務経験		有	使用教室	401教室・レク室・パソコン室
授業概要	1～4、9:臨床実習Ⅰ(地域実習)準備のための科目である。実習の目的を理解し、必要書類を期限内に提出するなど、社会人としてのマナーを身につけることを主たる目的とする。その他:国家試験過去問題や解説文章などを活用して、基礎医学(解剖・生理・運動学、その他)と臨床医学(病理学等)への理解を深める機会とする。Moodleを使用したE-Learning、ヒントレ等の国試参考書を使用した調べ学習等を行います。また、作業療法専門学習の一環として実技練習を行います。									
一般目標	1～4、9:実習に向けた必要書類を作成し、臨床実習を遂行するための流れを理解できる。必要書類作成を通して然るべき日本語表現をすることができる。その他:基礎医学(解剖学・生理学・運動学・その他)と臨床医学(病理学等)の全範囲を履修できる。作業療法専門の一般的技能を習得できる。									
テキスト 参考書等	1～4、9:なし その他の参考書:PT・OT基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版、臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 最新版									

到達目標			
知識(認知領域) ・1～4、9:臨床実習Ⅰ(地域実習)の目的を理解し、実習生プロフィールにそれを反映することができる。実習報告書を作成できる。 ・その他:基礎医学・臨床医学の国家試験過去問題を正しく解ける。また、問題によっては解説できる。作業療法専門で与えられた課題について説明できる。			
技術(精神運動領域) ・作業療法専門の一般的技能を実践できる。			
態度(情意領域) ・3～5、9:必要書類の期限を厳守し、プロフィール作成の指導教員に対して指導の予約を自主的にとることができる。書類を期限内で提出できる。 ・毎回の授業に参加できる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	地域実習演習(血圧測定)	血圧測定の方法を説明できる。また、監視下で実践できる。	血圧測定の原理と手順を予習する(30分)。 正確な測定手技と力加減を復習する(30分)。
2	地域実習演習(コミュニケーション)	コミュニケーション技術の方法を説明できる。また、監視下で実践できる。	接遇マナーと言語的交流を予習する(30分)。 演習での対人技能を自己省察する(30分)。
3	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備	臨床実習Ⅰ(地域実習)の目的や留意事項、スケジュールを理解できる。	実習の目的と留意事項を確認する(30分)。 スケジュールと提出書類を把握する(30分)。
4	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備	実習生プロフィールを作成し実習目的を説明できる力を養うとともに、必要な語彙力、文章力を身につける。	自己紹介等の必要語彙を整理する(30分)。 授業で配布された資料を読み直す(30分)。
5	臨床実習Ⅰ(地域実習)に関連する講義、書類準備	実習ガイドブックの内容を説明できる。個人情報保護誓約書等の必要書類を期限厳守で作成できる。	ガイドブックを読む(30分)。 ガイドブックを読み直す(30分)。
6	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	運動学の重要項目を予習確認する(30分)。 CBTで満点を取れるよう復習する(30分)。
7	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	病理学等の臨床医学を予習する(30分)。 苦手な過去問を重点的に振り返る(30分)。
8	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	専門技能の実施手順を予習する(30分)。 習得した実技の手技を反復練習する(30分)。
9	実習報告書の作成	実習で経験したことを指定の様式でまとめることができる。	実習の経験内容をメモに整理する(30分)。 指定様式での記述を完成させる(30分)。
10	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	基礎医学の未習得範囲を予習する(30分)。 小テストの誤答箇所を再度解く(30分)。
11	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	関連する専門分野の基礎を予習する(30分)。 技能練習の精度を自己評価する(30分)。
12	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	過去問の解説文章を読み込む(30分)。 実技での注意点を再度確認する(30分)。
13	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	国家試験の頻出項目を予習する(30分)。 CBTの進捗状況を最終確認する(30分)。
14	基礎・臨床医学 習熟度確認 作業療法専門技能の練習	基礎・臨床医学の国試過去問題を解くことができる。また、習熟度テスト(CBT)が100%で終了できる。作業療法専門技能を練習し、習得できる。	専門技能の総仕上げを予習する(30分)。 習熟不足な箇所を徹底的に復習する(30分)。
15	ゲートキーパー講座	自殺に関する社会構造と問題点について理解し、説明できる。 自殺対策の基本的事項、ストレス対処法、ゲートキーパーの役割について理解し、説明できる。	自殺対策の基本事項を予習する(30分)。 全範囲の総復習を行い定期試験に備える(30分)。

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	作業療法士として臨床や教育の経験を有している	